

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2082500113		
法人名	有限会社ななすぎ		
事業所名	介護センター ななすぎ		
所在地	長野県下伊那郡松川町元大島2002-2		
自己評価作成日	平成28年2月22日	評価結果市町村受理日	平成28年4月5日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/">http://www.kaigokensaku.jp/</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社マスネットワーク 医療福祉事業部
所在地	長野県松本市市上13-6
訪問調査日	平成28年3月4日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・ボランティアの方々また、イベントの皆様、地域の方々との交流の場を設け「なじみの場」作りに協力して頂いています。  
 ・ホームだよりを毎月発行し、一ヶ月の様子を写真に収め、ご利用者様の暮らしや出来事を、ご家族の方や地域の方々に伝えています。  
 ・利用者様と一緒に季節ごとの作品作りに取り組んでいます。(その作品は地域のイベントに参加し展示させていただいています。)

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

現在の場所に新築移転して2年が経過して、こちらでの生活や活動も定着しつつある。今までの地域との関係づくりも継続しており、今後も地域のホームとして役割を果たしていけることが期待できる。毎日行っている利用者主体の言葉使いの読み合わせは、そのことが利用者を尊重する職員の姿勢となっており、やさしい穏やかな雰囲気をつくっている。また、汚れたらすぐにきれいにすることが徹底されており、ホーム全体が清潔で整理されており、季節感もあり安心して過ごせる場所となっている。職員は、それぞれの状況に合わせた働き方が取り入れられ、幅広い年齢層で構成されており、お互いのよさを活かした介護につながっている。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

ユニット名( )		項目	
項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

## 自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Alt+)- + (Enter+)-です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>理念に基づく運営</b>					
1	(1)	<b>理念の共有と実践</b> 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域との繋がりを大切に関係を築いていくに当たり地域のボランティアさんとの交流を毎月計画実行している。	運営理念は「一人一人の人生が輝くように」とある。具体的なことについては、月1回のミーティングや日常的に業務の中でお互い確認している。また、毎日言葉使いについて、場面ごとの事例を読み合わせており、利用者の尊厳を大切にコミュニケーションに努めている。	
2	(2)	<b>事業所と地域とのつきあい</b> 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	地域の方々が気軽に訪問出来る様納涼祭(ななすぎ祭)を実施し交流を深め、利用者様と地域との繋がりに繋ぎ合っている。	月1回お話やレクリエーションのボランティアが来てくれる。また、図書館のボランティアも定期的に訪問している。地区のふれあい広場や神社のお祭りに参加、ホームの納涼祭には、地区の人たちが訪れるなど行事を通して交流の機会がある。	
3		<b>事業所の力を活かした地域貢献</b> 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域との交流を重要視し、年に一度の社協開催の「ふれあい広場」に作品を一年間計画で出展し地域の方に理解と支援を得ている。	/	/
4	(3)	<b>運営推進会議を活かした取り組み</b> 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を行い包括、自治会の方のご参加とご家族にご参加頂き、施設としての取組みや課題などを意見交換しながらサービスの向上や利用者様主体の介護サービスを目指す。	自治会長、地域包括支援センター職員、民生委員、自治会防災部長、家族等がメンバーとなり、活動報告や現状等について話している。現在の場所に移転してきてからは、定期的に開かれていない。	移転して2年が経過して、この地でのホーム運営も安定してきている。今後、これまでの経験を活かして、定期的に運営推進会議を開催していかれることが望まれる。
5	(4)	<b>市町村との連携</b> 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議で施設側の現状や取組みを理解して頂き、認定調査など訪問の際施設を見学して頂き訪問しやすい環境づくりを行う。	認定調査の機会などに、現状をみてもらい実情等話している。また、必要時には、連絡を取るなど、協力関係を築くように取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	利用者様らしくをモットーに、我が家で安全に暮らして頂く為、スタッフは利用者様の安全の見守りを行っている。 やむをえず危険がある場合はご家族様の同意を得てその期間のみ実施する。	言葉の拘束も含めて、日頃からお互いに気をつけている。言葉使いについては、毎日読み合わせを行っている。夜間のみ、ベッド柵を取り付ける場合は、家族とも話し合い同意書をもって、安全面を考慮して実施している。その際も、身体拘束について話し合っている。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	社会人として、介護する側としてのモラルを持ち日々利用者様と接している。 毎日申し送りの際声掛け(良い例)を全員で発声し虐待防止に取り組んでいる。		
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会に参加し、学ぶ機会を設けている。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	事業所の運営方法を常に見て頂き、ご家族様に状況を報告している。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	いつでも意見や要望など寄せられるように施設側からご家族様へ働きを行っている。 面会の際、コミュニケーションを取り合い要望などすぐに反映出来る様運営を行っている。	受診の際、面会時等に何か要望等あるか、声をかけている。家族向けのお便りにもご意見・ご要望などがあつたら気軽に連絡できるように掲載している。行事のときに、アンケートを取って要望等聞くなど、意見や要望が出しやすいように配慮している。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のミーティングの場で各職員の意見や提案を話し合いの中で取り入れる運営を行っています。ミーティング以外の場面でも良くする意見が出た場合は申し送りへ記入しスタッフ全員で共有出来る。	月1回のミーティングに、勤務時間や必要物品の要望など、意見を出して改善されている。年1回は管理者の面接があり、意見等を聞く機会を設けている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		<b>就業環境の整備</b> 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤労者の勤務条件を考慮している。 職員のレベルアップの為に研修への参加を推進している。		
13		<b>職員を育てる取り組み</b> 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々のスキルアップの為に研修、資格の大切さを重んじている。		
14		<b>同業者との交流を通じた向上</b> 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	勉強会の知らせや講習会の受講などミーティングなどで発表し共有出来る。		
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		<b>初期に築く本人との信頼関係</b> サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者様が安心して自分本来として生き生き暮らして頂くために、じっくり相手を知る為の観察をし利用者様との信頼関係を築く為に普段からの関わりを大切にする。		
16		<b>初期に築く家族等との信頼関係</b> サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご利用者様、ご家族様との関係も考え可能な限り話し合いの時間を設け、ご家族様の不安の軽減とともに信頼関係を深めるように行う。		
17		<b>初期対応の見極めと支援</b> サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご利用者様とご家族様にとって日々変わっていくなかでの今ベストな提案をサービス提案をし支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の大先輩、ご利用者様という大切な存在で一緒に時間を共有でき感謝し信頼関係に繋がっている。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご利用者様とご家族様との繋がりを大切に良好に繋いでいく関係を築けるようサポートする。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご利用者様が昔買い物に通った所へ一緒に行ったり新聞などに馴染みの場所が出ていたら見つけて話の中で何度も出したりするなど昔の事も大切にす。	以前住んでいた近所の方の面会があったり、家族の協力も得て、墓参りやお店に行くなど、馴染みの人や場所の関係を大事に支援している。、日頃の会話のなかで、新聞等を活用して馴染みの場所について話題にするなど配慮している。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の関係を観察しトラブルなく孤立せず関わられるよう支援する努力を心掛ける。		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後のご家族様が気楽に他の利用者様や職員を訪問してくれている。		
<b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご家族様からの情報、生活暦などから利用者様の思いや意向の把握に努める。ご本人をどう支援していくのが良いかを職員で共有している。	日頃から、本人の「つぶやき」を聞くことを大事にして、聞いたことは個人ファイルに記録し、必要なことは申し送りするなど、希望や意向の把握に努めている。意思表示が困難な場合は、家族に聞いたり、表情や日頃の様子からみんなで検討して判断している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者様個別の記録帳にその方の情報が入っている。日々の様子も記録したり、本人の様子必要なケアも把握できている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	出勤したら一番に利用者様全ての方の様子、体調などの申し送りを確認してから勤務する。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人、ご家族様の希望や意向に添って必要なケア、支援、短期目標、長期目標を計画作成。職員が共有し意見交換を行っている。	毎月、利用者全員の状況確認と、定期的な介護計画の見直しを職員全体の参加で行っている。モニタリング、経過、担当者会議の記録もわかりやすくまとめてあり、現状に即した介護計画を関係者で作成していることがわかる。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々継続中のケアの統一を計ると同時に毎日のケアでより良く出来る所の意見を話し合い情報を共有し実践を心掛けている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご利用者様もご家族様も現状の希望や変化に可能な限りのサービス提供を行っている。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアで太鼓・ダンス・演奏・風船など大勢の方々の演芸披露や地域の方々の協力を得て支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>施設都合ではなく、ご本人、ご家族様希望のかかりつけ医を選択し、同行希望の際も相談し支援を行っている。</p>	<p>本人、家族の希望に沿って、かかりつけ医を決め受診している。受診は、家族が行い、必要に応じて同行するなどの支援を行っている。</p>	
31		<p>看護職との協働</p> <p>介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>常に利用者様の様子や異変を共有し、変化に速やかに管理者に報告し、指示に従っている。</p>		
32		<p>入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>利用者様が入院中でも職員が交代でお見舞いに行っている。家族の様に着替の洗濯も行う。一緒に他の利用者と同行し励ます。病院での情報をスタッフに伝え退院に備える。</p>		
33	(12)	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>日々のケアから見守りからいづれくる終末期を見据え、ご家族様の意向や方針を職員が理解しケアに取り組んでいる。</p>	<p>基本的に希望があれば看取りを行うことになっている。入居時には、書面で終末期等の希望について聞いている。また、職員に対して、日頃から終末期の対応について話をしている。</p>	<p>重度の入居者が増えるなか、状況に合わせて、家族の希望を聞き話し合いをもつなど、主治医も交えて今後の方針を共有できるよう支援されることが望まれる。また、職員教育も、テーマを設けて進められることを期待したい。</p>
34		<p>急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>管理者にすぐに報告し、指示に従っている。年に一度普通救命講習を受講している。</p>		
35	(13)	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>災害に備え、地域の防災訓練に参加。</p>	<p>災害時、地域の協力体制は得られている。防災訓練は、地域の訓練に参加しているが、独自の訓練は行っていない。</p>	<p>火災だけでなく、地震も含めて、ホーム独自の訓練を実施されることが急務である。夜間想定、職員の伝達訓練、備蓄の状況等、総合的に運営推進委員会の協力を得るなどして進められるが望ましい。</p>

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日々の言葉遣いも注意している。 名前の呼び方は契約の際決められているのを使用している。	言葉かけについては、毎日確認しあい、利用者の人格を尊重したコミュニケーションに努めている。訪問当日も、穏やかな雰囲気のほか、優しい言葉かけや対応が見られた。部屋の名札は目隠しされており、めくらないと見えない工夫がされている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者様がご自分の希望や意思を尊重できるように日頃から職員との関係を大切にしている。 希望に沿う支援の働きかけを行う。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員が利用者様に合わせる為に時間を決めず、希望に添って行動できるよう支援している。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎朝の洗顔、顔拭き、食事の度の口腔など整髪もご自分で出来る事を行って頂く。「素敵ですよ」とご本人に自身を持って頂く。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	お茶やお菓子の配膳で食器拭きなど出来る事は行って頂く。 食事中も楽しく過ごせるように職員も入り会話をしながらゆっくり召し上がって頂く。	食事は、外部業者を活用しているが、季節や希望に応じた献立になっており、職員と一緒にそれぞれのペースで食べている。おやつや漬物などはホームで手作りしており、準備や下ごしらえなど、できることはみんなで楽しみながらやっている。当日は、りんごのジャム作りで、りんごの皮むき、切るなどを行っていた。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は栄養バランス、カロリー管理個人に合った分量になっている。 お菓子は地の物を利用者様と調理し召し上がって頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		<p>口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている</p>	<p>利用者様、毎食後の口腔ケアを実施している。ご自分で行えない場合は職員が行っている。</p>		
43	(16)	<p>排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている</p>	<p>排泄パターンを記録で残し、ベースは誘導時間でその日の気、温水分摂取、食事量なども考慮し個々の排泄支援を行っている。</p>	<p>基本的には、トイレでの排泄を支援している。寝たきりの方や車椅子の方も多く、排泄パターンを記録して、その人にあつたおむつ交換、排泄介助、声かけを行い、気持ちよく過ごせるように支援している。</p>	
44		<p>便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>排便チェックもスタッフ間で申し送りをし、便秘の方への水分補給やお茶菓子に工夫をする。お腹のマッサージなども利用者様の安心を促している。</p>		
45	(17)	<p>入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそつた支援をしている</p>	<p>清潔を保つと共にリラックス効果を持てるように、時期の柚子を入れたり工夫している。利用者様と相談のうえ入浴実行する。</p>	<p>週2回は入浴できるように、様子を見ながら声をかけ、楽しんで入ってもらえるようにしている。入浴できない場合は、下着を着替えるなど清潔には配慮している。夏場は、状況や希望に合わせてシャワー浴を行っている。</p>	
46		<p>安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>個々のペースでまた高齢ということもありどんな状況なども対応するように心掛けている。</p>		
47		<p>服薬支援 一人ひとり使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>個々のカルテに薬の処方があるので職員全員が共有できる。薬の服用の際は間違いの無いよう名前、いつ(朝昼晩など)の薬か声に出して読み確実に飲んでいただく。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の作品作り、行事食、おやつ作りには季節もヒントにし利用者様の意見を取り入れて利用者様がができる範囲で参加して頂き楽しんで頂く。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	食品や日用品の買い物など、大きなショッピングセンターや小さなスーパーなど、地域密着などの外出支援も行う。産まれた土地などにも出かけ他地域へ出掛け喜んで頂く。	近くのお店や離れたスーパーなど、希望を聞きながら買物に出かけたり、季節に合わせてお花見に行くなどしている。散歩を楽しんだり、時には1階のデイサービスセンターに行くなど出かける機会を作って支援している。また、広いテラスに出て、景色を眺めて楽しむこともある。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在お金をお預かりする事はない。ご家族様がご利用者様の希望の品物を持参してくれている。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状は葉書など知人などから送られて来た場合ご本人にお渡しする。大切な物なので居室へ飾っていつでも見えるよう工夫する。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を飾ったり、作品作りを行いそれを飾る事で今を理解して頂く様にし、ホールも家庭の様な生活感のある空間作りを工夫している。	広い居間には、季節の花やタペストリー、雛人形が飾られ、ゆったりとした過ごしやすい雰囲気である。トイレ、居間、居室等整然として、不快な匂いもなく清潔感があり、居心地よく過ごせる空間となっている。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室は個々に家具の配置や飾りつけなど工夫している。 共有スペースは自由に車椅子や自立の方でも安全性を考慮し空間を過ごせるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様の趣味、意向を取り入れご自身が居心地良く過ごせる空間に工夫している。	それぞれが、ベッド、たんす、物入れ等持込み、家族写真、カレンダー、人形等が飾られ、好きなように居心地よく過ごせるよう工夫されている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	危険因子は排除する。移乗に不安な方にはすべり止めマット使用するなど。事故予防には職員が理解し工夫し取り組んでいる。		

### 目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。  
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	ホーム独自の防災訓練。	今年度昼間・夜間の防災訓練の実施をしていく。	火災、地震災害に備え地域の防災訓練に参加する。 情報伝達訓練2回は実施したい。	12ヶ月
2					
3					
4					
5					

注)項目の欄については、自己評価項目の を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。